

第4回超深地層研究所安全確認委員会 会議録

1. 日時:平成16年9月27日(月) 13:30～14:15
2. 場所:瑞浪市陶磁器会館 3F 大ホール「瑞雲の間」
3. 出席者:高嶋芳男委員長(瑞浪市長), 橋場克司副委員長(県地域計画局長), 日比野徳委員(戸狩区), 吉田実委員(山野内区), 安保征示委員(平成15年度瑞浪市連合区長会長), 可知初恵委員(瑞浪市地域女性の会), 林力三委員(土岐市連合自治会連絡協議会会長), 永井省吾委員(河合区), 井篁啓子委員(土岐市連合婦人会会長), 市川晴宣委員(瑞浪市議会), 工藤輝夫委員(瑞浪市企画部長), 大野嘉弘委員(東濃地域振興局長), 青木治三委員(名古屋大学名誉教授) <名簿順, 敬称略>
4. オブザーバー:山近英彦(資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策室長)
5. 報道関係者:中日新聞, 岐阜新聞, 毎日新聞, 朝日新聞
6. 傍聴者:2名
7. そのほか:自治体関係者, サイクル機構関係者
8. 委員会議事内容

○委嘱式

- ・高嶋委員長より新任委員への委嘱状の授与

事務局より会議の進行についての説明

- ・会議資料の確認

1p 次第

2p 委員名簿

3p～5p 委員会設置要綱

資料1 超深地層研究所(核燃料サイクル開発機構)
地層を科学する(パンフレット)

平成15年度 瑞浪超深地層研究所 事業報告
平成16年度 瑞浪超深地層研究所 事業計画
超深地層研究所計画の現状

・日程説明

(1) 委員長あいさつ

高嶋委員長よりあいさつ

・あいさつ要旨

瑞浪超深地層研究所については、高レベル放射性廃棄物を安全に最終処分するための研究の準備期間中ということであり、一昨年の7月以来、工事は順調に推移している。

昨年の第3回会議において、年に1度、核燃料サイクル開発機構から事業説明を受け、この目で現地の視察を行い、安全を確認していくということになっている。今日は、核燃料サイクル開発機構から事業説明を聞き、時間の許す方は、是非現地を見ていただき、安全なうちに研究が進められていることをしっかりと確認していただきたい。

(2) 核燃料サイクル開発機構の事業について

核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター大澤所長より、資料(超深地層研究所計画の現状)に基づき事業説明が行われた。

・説明要旨

瑞浪超深地層研究所では、高レベル放射性廃棄物を安全に地層処分するための研究の一環として、地下を知るための効率的な手法を開発することを目的としている。地下を知るということは、地下水の流れ方や水質、岩の性質などを知ること。

研究スケジュールとしては、以下の3つの段階で進めている。現在は、第一段階がほぼ終了し、研究坑道の本格的な掘削に移ろうとしている。来年(平成17年)2月頃から現在の50mより深いところを掘っていけるようになる予定。

第一段階 地表からの調査予測をする研究段階

- ・文献調査、地表の観察
- ・振動を利用した地下構造の研究
- ・深層ボーリングによる地下の構造や地下水の研究

第二段階 研究坑道の掘削を伴う研究段階

- ・坑道を掘削し、第一段階での予測を確かめる研究
- ・地下水の流れや水質の変化を研究

第三段階 研究坑道を利用する研究段階

- ・研究者が地下に入って詳しく調べる技術を開発

【質問】

安保委員:振動を利用した地下構造の研究の中で、機械的に振動を与えてやるという説明があ

ったが、将来、その研究は逆試験になるというようなことを言ってみえたが、何か意味があるのか説明頂きたい。

大澤所長：(資料;超深地層研究所の計画の現状、図6を見ながら)ここでいうのは、MIZ—1(ミズワン)の方から振動を発生して、DH—2(ディーエイチ2号坑)の方で振動を受けるという図になっているが、今、試験方法を検討しているところだが、DH—2から振動を発生してMIZ—1の方で振動を受けるということがあり得るかもしれないということを説明したかった。

安保委員：了解。

青木委員：安全確認とは直接関係ないが、例えばこの地域の花崗岩に水があるかないとか言われていたが、他所の地域と比較してこの花崗岩は大丈夫なのかどうか等、そういった点が分かれば教えて頂きたい。

それからもう一つ、地下水の調査をしておられるようだが、例えば年代測定等をすれば現在の地下何百 m の地下水は、何年前の地下水かということも検討が付くはずなので、この委員会の趣旨とは異なるが、この地域の自然を知るために役に立つので説明頂きたい。今日は、特に必要ないので次回からお願いしたい。

大澤所長：青木委員からご要望のあった件については、今後、対応していく所存。折角なので本日も出来る範囲で説明させて頂く。

この地方の花崗岩は、約 7,000 万年前にマグマが地下の方から非常にゆっくり冷えて固まったものである。いわゆる日本の普通の花崗岩と同じような強さであることが分かってきている。地下水についても、青木委員の仰るとおり年代を測っている。地下水の年代というのは、いつ頃地下にしみこんだかということ。地下水の年代の測り方については、地下水は二酸化炭素を含んでおり、その二酸化炭素の中に極微量であるが放射性的炭素が含まれているが、その炭素の量を測ることによって、いつ、雨水が地表から地下に潜ったかが分かる。まだ、瑞浪超深地層研究所での地下水については正確な数値は分かっていないが、東濃鉾山のデータでは、約1万数千年前に地表に降った雨水が地下に潜り、湧き出ていることが分かっている。青木委員からご指摘頂いた内容については、もう少しデータが揃ってからご報告したい。

青木委員：了解。

(3) その他

オブザーバー：資源エネルギー庁放射性廃棄物対策室 山近室長よりあいさつ

高嶋委員長より閉会あいさつ

以上